

令和7年度 第3回 和泉市公共交通利用活性化プロジェクト委員会 議事要旨

【会議概要】

- ・日 時：令和8年3月30日(月)10:00～11:00
- ・場 所：和泉市コミュニティセンター1階大集会室
- ・欠席者：栞原委員、坂上委員、小川委員、北橋委員

【次第】

1. あいさつ
2. 委員紹介
3. 議案
 - 1) モビリティハブの検討について
4. 報告
 - 1) 中山間地域における公共交通について
 - 2) 阪和西エリアオンデマンド型交通について
5. その他

【議事概要】

1. あいさつ

森吉委員長：本日はお忙しい中、ご出席いただき、また本市の公共交通行政をはじめ、市政各般にご協力いただき感謝申し上げます。公共交通は地域ごとに異なる課題を抱えており、大都市では公共交通機関の過密状態が常態化し、混雑が深刻化する一方、地方都市では人口減少や高齢化により、公共交通利用が減少し、その結果、特にバス路線の維持が厳しい状況が続いている。多くのバス事業者が赤字経営となり、減便や廃止が進み、自家用車への依存が強まる一方、免許返納や交通空白地において移動手段の確保といった課題に対し、次世代交通と呼ばれる技術やサービスが注目されている。地域ごとの課題に応じた新たな交通システムを導入することで、移動の利便性が向上し、持続可能な交通ネットワークの構築が可能になると考えられている。本市では南部地域へのデマンド型交通システムの導入に続き、本年2月からJR阪和線西側において、交通不便地域の解消として、デマンド型交通システムによる実証運行に取り組み、地域の移動ニーズに合った効率的で持続可能な移動手段の検討を行っている。本日は、モビリティハブといった新たな取り組みを考えており、公共交通の利用による外出促進とともに、コミュニティ交流や健康増進を複合させたモビリティハブ事業の検討をはじめ、中山間地域、阪和西エリアデマンド型交通についての報告となっている。関係機関との連携・協

力がより一層必要と考えており、委員皆様のお力添えをお願い申し上げます。本日は、中山間地域における公共交通をはじめ、阪和線西エリアにおけるデマンド運行計画に関する議案となっており、委員皆様におかれては、地域公共交通の活性化とともに、地域の移動手段の確保策に向けて、多様な観点からご意見を頂き、ご審議いただきたい。

2. 委員紹介

(省略)

3. 議案

1) モビリティハブの検討について

(事務局より資料1の説明)

伊勢副委員長：事務局からの説明について質問や意見等はあるか。実証実験との事だが、どれぐらいの期間なのか。

事務局：令和8年度 of 取組み事業と考えており、3月末まで実証実験を考えている。

伊勢副委員長：令和9年3月までが実証期間で、この期間で検証報告を評価することは確認できたが、具体的にいろんなことが進んでいないとなると、他部署との議論を通じて、例えば店舗内にまちの保健室を作る、デジタルサイネージを設置するなど、実証期間が終えてからにはなると思うが、スケジュール的にはどう考えているのか。

事務局：説明の中であつた通り、現在オークワの施設内でどこを使用できるのかを協議している。そのスペース等によって、何が出来るかどうか具体的なことが決まってくる。次回6月末までに第1回本委員会を開催する予定にしている。第1回までにはある程度具体的な施策や検討項目などを報告出来ればと思う。

伊勢副委員長：ここで議論の余地はあるのか。

事務局：はい。

伊勢副委員長：他に議論することはあるか。例えば、こういう機能を持たせてほしいなど。6月までに他部署の連携とか話し合いが全体的になると思うが。モビリティハブということでバスを含めて路線維持バスや、チョイソコいずみ等あるが、本日タクシー業者が欠席だが、タクシーとの連携も含めてぜひ検討してほしい。バス自体の運行頻度が多くない場合、例えば駅前バスの帰りの時刻がある中でタクシーを使いやすくする。タクシー業者は抵抗があるかもしれないが、バスの時刻表の下にタクシー会社の電話番号を記載するなど、デジタルサイネージの中に入れることも検討してみてもどうか。モビリティハブとは、徒歩圏内に生活環境施設が集中して、ローカルハブ(小さな拠点)としてのポテンシャルも高い気がしている。中山間地域に住んでいる人が、長い時間をかけてバスを乗り換えながら都

市の中心部に行って生活をするのが非現実的な中で、そういった方が日常生活圏をここで構築すればバスの便数が少なくても、ここに行けばワンストップで全てのもものが揃って帰って来られるという意味では生活の質の向上にも繋がるように思う。モビリティハブの機能はもちろん大事だが小さな拠点としての可能性も探してほしい。地域の方にとって、まちの保健室など例をあげているが、他部署との議論もあるかと思う。この段階で何か意見ないか。バス事業者として、モビリティハブができる時に何か協力できるような案はないか。

小池委員：協力できることとなると、弊社バスロケーションシステムを現在、お客様に提供しており、事前バスの運行をあと何分で停留所にバスが来るのか接近情報を持ち合わせているので、こちらをデジタルサイネージで共有させることによってお客様に具体的にお知らせできるのかと思う。

伊勢副委員長：具体的にモビリティハブの取組みに事業者として関わった実績はあるか。

小池委員：現時点では、こういった取組みに参加したことはない。

伊勢副委員長：分かりました。この件については、事業者として検討してほしい。

田中委員：国の補助金が難しかったことは大変申し訳ない。オークワという事業者があり、難しいとは思いますが、もう少し店の中の方に入り込んで乗り継ぎがうまくいくように出来たらと思う。乗り継ぎが出来るといっても結構歩くからしないと、この距離感を見た時に思う。ぜひ一緒に検討してほしい。また、バスの待ち環境でバス停とかそういったところも一緒に検討して、予算を引っ張ってくるのが良いかと思う。

伊勢副委員長：事務局の方でよろしく願います。6月にはもう少し具体的になってくると思うので、また何かあれば次回の会議で報告願う。

事務局：バスの乗り継ぎの件について、店の中に引き込めないかと話があったが、事前に商業施設と南海バスと協議したが、その方が一番いいのは理解できるが、なかなか店舗のスペースを確保することが難しい。また、来客の安全の取組みの問題もあるため、難しいところではある。店舗内は、一般的には乗り継ぎで利便性が高いと感じているが、事前に協議した経過だけお伝えする。

伊勢副委員長：他に意見がないので、議案1の進捗状況については計画に沿って事業を進めていくで、ご異議ないか。

(一同異議なし)

伊勢副委員長：この件について、ご異議がないということで承認いただいたので、事務局は計画に沿って進めていただきたい。

4. 報告

- 1) 中山間地域における公共交通について
(事務局より資料2の説明)

伊勢副委員長：事務局からの説明について質問や意見等はあるか。

仲谷委員：チョイソコいずみについては、榎尾学園に登校するのに小学生が毎日使っている。今の段階で、次年度も2～3人が同じように登校することが予測される。下校時も使用していて、非常にありがたいと思う。利用者アンケートについては、「あなたの年齢を教えてください」の問いの答えが、【10代】とあるが、【10代以下】に修正できないか。8歳、7歳のこどもも使用しているので。「利用状況」についても、【毎日】と加えてみてはと思う。週に数回の利用も一部あるかと思うが、修正するとこども達や保護者も回答出来るかと思う。

伊勢副委員長：このアンケートは既に実施しているのか。

事務局：3月25日から実施している。意見があった登録の修正等については、適宜出来る範囲で行っていく。

伊勢副委員長：よろしくお願ひします。今のところの課題については、乗車定員が少ないことで利用が出来ない人、予約が取れない人が存在することが課題である。地域で生活している人から、これ以外の意見はあるか。市役所に直接意見が届いていないか。

事務局：チョイソコいずみについては、時間帯によって予約が取りづらいことがある。1週間先の予約は出来るが、高齢者は当日予約を希望されることが多いと、地域の代表からは聞いている。当日予約となると、事前予約が入っているので、なかなか使い方が難しいとの意見がある。

伊勢副委員長：予約のキャンセルが入って、実際停留所に行ったら人が来ていなかった事例はあるか。

事務局：運行事業者が本日の会議で欠席しているため具体的な回答ではないが、迎えに行くまでに予約のキャンセルが分かれば次の予約停留所に向かうと聞いている。また、予約を受けて、停留所に迎えに行くと人がいなかった事例が数回あったことも報告は受けている。

伊勢副委員長：ここの自治体だとあまり問題はないようだが、他の自治体だと収支率や利用者数を目標にしているので、このような事例があると評価に支障をきたすので、何らかの対策が必要かと思う。時間帯によっては意見があったが、それは定時定路線型も同じではないか。そういう意味では、月ごとの運行実績が大事かと思う。時間帯別の利用者数なども今後把握していかないといけない。今回、チョイソコいずみの利用者へのアンケートが中心となっているが、恐らくゆくゆくは定時定路線型にも課題があると思う。ある程度時間が経過してから、こちらについても調査をして実態を把握していかないといけない。またご意見等願ひする。このチョイソコいずみのアンケートの結果は、次回の本委員会で公表するのか。

事務局：5月15日までアンケートを実施しているので、令和8年の第1回本委員会で報告いたします。

伊勢副委員長：その時に具体的に出る可能性はあるが、その間までに地域の方に何か意見を聞いたら、この場で紹介してほしい。他にご意見がないので、報告1については、以上とする。

2) 阪和西エリアオンデマンド型交通について

(事務局より資料3の説明)

伊勢副委員長：事務局からの説明について質問や意見等はあるか。2月2日からだとそんなに日は経過していないが、先程の中山間地域のように、予約が取れないことや今後の課題など見えているのか。

事務局：まだ課題等は見えていない。周知方法が回覧やHP、商業施設にパンフレットは配架しているが、地域によって利用の違いが出てきている。

伊勢副委員長：運行を始めてから日が経過していないので、特に何か意見はないような気がするが、気になったところが、チョイソコ通信を3月中に発行するとのことだが、内容等の説明をしてほしい。

事務局：元々、チョイソコ通信とは南部地域でチョイソコいずみを導入した時に、年4回発行している。会員や地域に回覧する為に発行している。当初は、チョイソコいずみの概要や、季節によって南部地域であれば施福寺やバス停の紹介、利用促進に繋がるように周知して、記事を発行する時期によって内容を変えている。今回3月末に阪和西エリアで発行するものについては、まだ導入したばかりなのでチョイソコいずみの概要や、バスMAPは配布しているがこちらだと詳細が分かりにくいいため、バスや停留所(28か所)の写真をまとめて掲載し発行しようと考えている。

伊勢副委員長：今の話だと、中山間地域に年4回。阪和西でも年4回発行か。

事務局：チョイソコ通信については、和泉市として年4回発行となる。今回、阪和西エリアが2月から導入されて、令和8年度は南部地域と阪和西エリアの両方で発行となる。南部地域で年2回。阪和西エリアで年2回の発行予定である。計4回の中で発行したいと考えている。

伊勢副委員長：有償運行の実証期間が長いので、実績をもって効果検証して本格運行するかどうかを検討することになるかと思う。他事例などで、地域主導で地域協働型の交通サービスを行うには、設定している目標指標に対して今の状態はどうか。今のままでは本格運行できないので、これぐらい乗ってくださいと地域がチョイソコ通信とは別にパンフレットや資料を作成し回覧して、利用促進を促す動きを地域主体でしているエリアが多い。こういったことをして利用者を増やしていくという取り組みもあるので、ぜひこの地域でもそういったかたちで街が結構多岐にわたっているが、連携も考えて検討してほしい。2年間利用状況を待つだけでは難しいので、チョイソコ通信が年2回だけしかないのであれば、加えることがもし可能

であれば自治会と検討してほしい。

田中委員：今まで導入する時に市としてどこを目標にしていくかの話があったかと思うが、このエリアを運行するにあたって市としてエリアの人の満足度が充足されれば、一定、市の負担がそれなりであっても許容できるのか。それとも利用頻度を増やして一回乗車していくことで収支を考えてしていくのか。どちらなのか市としてきちんと考えてほしい。どこの市でもチョイソコを導入すると市の負担が凄くかかるかと思う。乗れば乗るほど負担が増すような制度になっているが、それでも利用者の満足度が上がっているならば市の負担はやむを得ないと判断をされる市もある。市の負担がどれだけあるか、利用者にも示しながらどっちの方向に向いているか決めていただけたらと思う。

伊勢副委員長：確か目標指標については、設定していたように思うが、差し支えなければ紹介してほしい。

事務局：評価指標の設定については、利用者数というなかたちで前回示した。田中委員からの意見も検討していきたいと考えている。チョイソコ通信についても、先程、副委員長からも意見があったように、地域が広いエリアになるので、チョイソコ通信も活用しながら実際の利用者数も掲載し、利用者数を増やしていけたらと考えている。

伊勢副委員長：利用者数については、2年間の利用者数をのせるのか。

事務局：令和9年度で利用者数を設定しているので、2年間の全体合計ではない。

伊勢副委員長：実証運行する前に、地域の方々に目標値を設定して運行していると解釈して良いのか。逆にここで議論して、指標の追加など出来ない、するべきではない気がするが、どうなのか。

事務局：利用者数については、本市の場合、創発プランにも位置付けされているため、その数値を変更することは難しいと考えている。

伊勢副委員長：田中委員の意見では、オンデマンド交通はどこでやっても1回運行すれば費用は2万円ほどかかる。収支でみると、タクシーを使用し、それを補助した方が安くなるはずなので、支出が多すぎると自治体の財政がひっ迫するので乗合率を高めるような工夫をして、検討してほしい。目標指標にとらわれずにやってほしい。他にご意見がないので、報告2については、以上とする。

5. その他

田山委員：令和2年度から実施していた、75歳以上を対象にしている【高齢者おでかけ支援チケット】が今年度末で終了となり、本日はタクシー事業が欠席だが、南海バスさんや岸和田観光バスさん、感謝申し上げます。

田中委員：ニュース等でご存じかと思うが、中東情勢の影響で燃料の高騰など、いろいろ制約等が出てきている。資源エネルギー庁から通達があり、路線バス事業者や

運行事業者も含めて影響が出ないようにと出ているが、一定数影響が出ていると既に聞いている。京都市交通局は2倍の値上げになっている。岸和田観光バスさんや南海バスさんも少し値上がりの影響も少し受けていると聞いているが、4月か5月で燃料が切れて運行ができなくなるころまではひっ迫していないと聞いている。今後、考えていかないといけない。事業者においても運輸局が情報収集しているので、その辺進言していただけるようお願いする。また、市も値段が上がってきているので委託費等に影響が出ることは把握していただくほうがいいかと思う。

井本委員：本日、タクシー事業者は欠席だが、また今年度に引き続いて来年度4月1日から運転手の人材確保関係の運転手補助が引き続きあるので、また、エントリーをお願いする。タクシーに関しても【ユニバーサルデザインタクシー普及促進事業補助金】や、【ポケットク】外国人を乗せるための設備の整備など、今年度から新しく始まるので、そちらも活用願う。

伊勢副委員長：ぜひ、国の方と連携しながら使える補助金等あれば使用し、公共交通の維持や改善に繋げられたらと思う。モビリティハブの件で、検証が令和9年3月までとなっているが、期間を設けるものではないかと思う。これで効果検証した結果として、先程の二つの項目にあるコミュニティ機能の検討、滞在価値がないと辞めるといってもないのかと個人的に思っている。むしろトライ&エラーで、こういう機能も置いたけどあまりニーズがなかったのだから別のものに変えとかそういう取組みかと思う。実証実験とは言っているが、新たな取組みとして1年とは言わず継続していくものとして考えてよいか。

森吉委員長：先ほど、副委員長からもスケジュール間の話があり、次の第1回目の本委員会の時に状況や課題について事務局から説明があると話があったが、モビリティハブの事業自身が全国的にこれまでも含めて事例がないことで、令和8年から和泉市を含めて全国2、3の団体で国交省の補助金を受けながら進めていくものだが、はっきりとした効果が表れていない。この1年でどこまで効果が出てくるのかというのが不透明なところもあり、探り探り進めていってこの地域のモビリティハブとしてふさわしいものを見つけていくことが令和8年度ではないか。その意味では、令和9年3月末の時点で進むのか、どうするのかそこで見極めるのではなく、ふさわしいものを構築していくことが令和8年度になるかと思う。現時点、全国で事例が少ないこともあり、先ほど副委員長からローカルハブの言葉もあったが、納花のオークワさんの場所に路線バス、チョイソコ、コミュニティバス、路線維持バスと集結している。商業施設もあるので、この辺で何か出来ないかと考えていること。まちの保健室、健康増進、あるいはコミュニティ醸成が繋がるものをここでやっていきたい。特に地域の皆さん、事業者の皆さんからのご意見をいただきながら出来ることを探っていく機会だと思っているので、ご協力をお願いします

る。令和8年度いっぱいで見極めをつけるものではない。

伊勢副委員長：本当に貴重な取組みですので、ぜひともよろしく願います。本日は、モビリティハブと中山間地域と阪和線西側のチョイソコの話があった。山側の方については、実際少し走らせてみて課題が見えてきたところで、課題解決に努めることと、定時定路線についてはまだ調査をしていないので、引き続き検討する方向になったかと思う。阪和西については始まったばかりなので、これから状況を見ながら山側と同じような形で実際運行してみてからの流れだと思う。モビリティハブについては、今説明をされたように実証実験で令和9年3月ではあったが、そういうものではなく、本会議でいろいろ議論しながらこの地域方々の生活の質を高めるようなモビリティハブとしてやローカルハブとしての機能を一回固めて議論できればと思う。

事務局：2件報告する。まず、南海電鉄泉北線ダイヤ改正により配布した路線維持バスのダイヤ改正をしているので、確認願う。また、来年度の6月までに本会議を開催予定しており、皆様の人事異動がある場合は委員の変更になるかと思うので、委員変更等があれば事務局あてにメール等で連絡をお願いします。

伊勢副委員長：委員変更があった際は、引継ぎもよろしく願います。

4. 閉会

事務局：本日は長時間にわたり熱心に議論いただき、感謝申し上げます。これにて本日の和泉市公共交通活性化プロジェクト委員会を閉会する。

以上

【会議の様子】

